学　校　の　沿　革

昭和 53(1978)年	大阪薬学専門学院を設立し、薬の街・大阪で薬業人養成の学校としてスタート。
昭和 54(1979)年	大阪府知事の認可を受けて財団法人大阪医療技術学園を設立し医療人の養成も開始。臨床検査技師養成学校として、厚生労働大臣の指定を受ける。
昭和 57(1982)年	全国にさきがけ、医療秘書科を設置。専門学校医療秘書教育の雄となる。
昭和 58(1983)年	大阪薬学専門学院と大阪医療技術学園臨床検査技師科並びに医療秘書科を統合し、医療業界の期待を担って学校教育法に基づく専修学校として大阪医療技術学園専門学校を設立。
昭和 61(1986)年	生命工学技術科を設置し、科学技術の分野の専門教育にも着手する。
昭和 62(1987)年	大阪医療技術学園専門学校より生命工学技術科を分離し、学校法人大阪滋慶学園大阪ハイテクノロジー専門学校設立。
平成元(1989)年	医療業界の情報化に対応すべき人材養成の目的で、医療情報処理科を設置。
平成６(1994)年	医療と福祉の橋渡し役を担う人材養成の目的で、医療福祉科を設置。
平成７(1995)年	付加価値の高い人材養成並びに生涯教育の一環として専攻科及び医療専攻科設置。
平成９(1997)年	大阪医療技術学園専門学校より医療福祉科を分離し、学校法人大阪滋慶学園大阪保健福祉専門学校設立。
平成 10(1998)年	医療・保健・福祉を連携できる人材養成の必要性により、「教育・社会福祉専門課程」を設置し、児童福祉科、医療福祉心理科を設置。
平成 13(2001)年	福祉系分野で活躍する人を対象に、健康で明るく美しくなることの指導者を養成する目的で、健康美容福祉科を設置。
平成 14(2002)年	化粧品の成分や効果を理解し、美容と健康に貢献する人材養成を目的として、薬業科にビューティーアドバイザーコースを設置。
平成 15(2003)年	東洋医学を学び、医療・福祉・健康・美容・スポーツなどの分野で活躍する人材養成を目的として、鍼灸師学科を設置。医療分野での心理的相談援助に重点を置くため、医療福祉心理科を医療心理科に名称変更。
平成 18(2006)年	言語や聴覚に障害のある人々の言葉のリハビリテーションを行い、医療・福祉分野に貢献する人材養成を目的として、言語聴覚士学科（昼間部）を設置。さらに、東洋医学分野での鍼灸師の育成・指導を担当できる教員を養成するため、東洋医療技術教員養成学科を設置。
平成 20(2008)年	東洋医学と健康・美容分野を融合した医療人育成を目的として、鍼灸健康美容学科を設置。医療業界のＩＴ化に対応しうる人材育成のため、医療秘書科を医療秘書・情報学科に名称変更。さらに薬事法改正による登録販売者認定資格を目指すため薬種商科を薬業科（夜間１年制）に名称変更。
平成 21(2009)年	公益法人制度の改革にともない、大阪医療技術学園専門学校の設置母体を「学校法人大阪滋慶学園」に移管。
平成 23(2011)年	社会人・大学卒業者の高度医療人材育成を目的として、言語聴覚士学科（昼夜間部）を設置。学校法人大阪滋慶学園にて、日本で初めての医療安全管理学修士課程を設置した滋慶医療科学大学院大学を開校。
平成 25(2013)年	学校法人大阪滋慶学園にて、島根県出雲市と公私協力による出雲医療看護専門学校を開校。
平成 27(2015)年	学校法人大阪滋慶学園にて、鳥取市と公私協力による鳥取市医療看護専門学校開校。
平成 30(2018)年	学校法人大阪滋慶学園にて、岡山県美作市と公私協力による美作市スポーツ医療看護専門学校、滋慶学園高等学校を開校。
令和２(2020)年	学校法人大阪滋慶学園と学校法人新歯会東洋医療学園が合併。新たに、東洋医療専門学校、新大阪歯科技工士専門学校、新大阪歯科衛生士専門学校の運営がスタート。
令和３(2021)年	学校法人大阪滋慶学園にて、滋慶医療科学大学院大学に医療科学部を新設し、大学名称を滋慶医療科学大学・大学院に改称。
令和６(2024)年	滋慶医療科学大学・大学院　教育・研究開発センター開設(未来・再生医療研究開発)